

第1 決算審査特別委員会（第2日目）

H21. 9.16(水) 10:00～

第二委員会室

開 会 10:00

委 員 長

委員動静報告～全員出席。これより本日の会議を開く。

労働費・農林業費・商工費

委 員 長

労働費・農林業費・商工費について説明を求める。経済部長。

多田部長

（労働費・農林業費・商工費について説明する。）

委 員 長

説明が終わった。これより質疑に入る。質疑はあるか。

関 藤

P199、中心市街地活性化対策事業に要した経費について、賑わい再生ロード事業はどのようなところに委託して、どのような内容なのか伺う。

千田室長

賑わい再生ロード事業だが、平成20年3月に認定された中心市街地活性化基本計画に位置づけた事業である。まちづくり交付金の提案事業ということで、交付金事業の対象になっているが、委託先はNPO法人アートチャレンジ滝川である。この事業については街なかのにぎわいを取り戻すということで、迎え入れの装置、迎客の装置、にぎわいの装置づくりということで発注している。節減だが、事業としては昨年度、駅前から大通商店街を含めて明かりをテーマに行った。今年度はヒツジをテーマにして、迎え入れの装置やコスモス街なかに入れたり、いろいろな事業を組み立てて実施しているところである。

関 藤

そのような事業を実際行つての効果はどうか。また、今後どの程度継続されていくのか伺う。

千田室長

国のまちづくり交付金としては平成20年、21年の2カ年事業である。商店街で行っている3拠点事業を含めて、アートチャレンジ滝川や消費者協会との連携をさらに継続させていく。また、効果であるが、紙袋ランタンフェスティバルでは、大通商店街も新たに参加して、通行量調査では、いつもの3倍程度の通行があった。

委 員 長

他に質疑はあるか。

渡 辺

- ① 労働費全体の中で、閉鎖した高等職業訓練校に関連する費目はあるのか伺う。
- ② 勤労青少年ホームに関し、青少年が実際に利用しているのか。人数を伺う。
- ③ P193、土地改良に要した経費の中で、エルムダム基幹水利施設管理事業負担金が750万円程度上がっている。いつまで負担金が続くのか伺う。また、利用している農家数を伺う。
- ④ P195、滝川ふれ愛の里に関し、滝川グリーンズの貸付金を3,600万円ほど支出しているが、収入でいえば同じものをもらっている。同じ年度に貸付と返還が行われている意味について伺う。
- ⑤ P197、林業振興に要した経費において、そらぶちの森づくり事業に関し、平成20年度7,500万円程度でどういう樹木をどれくらい植林できたのか伺う。
- ⑥ P198～199、中心市街地活性化対策事業に要した経費で、相当の費用をつぎ込んでいるが余り効果が上がっていないように思う。中心市街地の駐車場対策はどのようなになっているのか伺う。
- ⑦ どうぶつランドについて、この施設の役目は終わったと思うが、動物の処遇はどのようなになっているのか伺う。
- ⑧ スカイスportsについて、市として投入した費用が大きかったが、自助自立努力で少なくなった。利益が上がるように、市民にアピールする方法を工夫する

必要があると思うがいかがか。また、全国のオーナーの状況を伺う。

⑨ P203、丸加高原伝習館の管理代行負担金があるが、委託管理者が、滝川市内にいないということは特殊事情だと思う。管理代行負担金を 2,450 万円支出して運営する価値があるのか。これだけの費用をかけるのであれば、職員を 3 名程度派遣することもできる。直営であれば収入もあるが、指定管理であれば収入は入ってこない。この施設の役割は終わったと思うがいかがか。

⑩ 伝習館における市民及び市外の方の利用率を伺う。

若山部次長

① 高等技術職業訓練校については、労働費諸費の中に直接的な経費はないが、平成 20 年度で終了ということで、その対応のため旅費を使っていることはある。

石黒主査

② 勤労青少年ホームの利用状況だが、勤労青少年ホーム利用者協議会の会員が 80 名いる。平成 20 年度の会員の利用実績は、延べ人数 2,013 人になっている。

寿永主査

③ エルムダム基幹水利施設管理事業負担金について、通常であれば 550 万程度だが、年によって修繕等があり増減するということである。また、施設がある限り負担金は続く。農家数については、平成 20 年度は 12 戸の農家が利用している。

志賀副主幹

⑦ どうぶつらんだの動物の処遇について、既に新タッグ計画等で以前からどうぶつらんど等の閉園は議論されていたが、平成 23 年度をもって閉園という計画になっている。大型動物、小型動物について、各動物園等にアンケートを取っており、そのような施設に引き取ってもらう形で検討している。

千田室長

⑥ 中心市街地活性化計画を出してから、調査結果は横ばい状態である。しかし、平成 21 年末の通行量については、拠点 3 施設をつくった効果も出ている。いろいろな事業も行っているのでこれからの推移を見ていただきたい。

諏佐主査

⑤ そらぶちの森づくり事業について、この事業はユニチャーム株式会社の創業者である高原慶一郎氏の個人資産で創設されている高原基金の森制度から全額寄附によって実施されている事業である。事業の内容は、受水槽棟の新築及びそれに付随する設備工事、沿路造成、建築予定地の基盤工事である。

長瀬次長

⑥ 中心市街地の駐車場整備について、P201 の駅前駐車場の管理運営に要した経費に記載しているが、駅前商店街振興組合が行っている駐車場運営事業について、補助金を 120 万 2,919 円支出している。この駐車場は 161 台駐車でき、月平均 2,275 台の利用がある。1 日平均 78 台であり、稼働率が 48.4%となっている。

吉井課長

④ 滝川グリーنزの貸付金は、平成 20 年度 3,600 万円ということで、年度当初に 3,600 万円を市から貸し付けて、年度内にその金額を返してもらうことで、単年度主義の中で行っている。滝川グリーنزの経営努力として、21 年度の貸付金については、20 万円程度少なくなっている。

千田室長

⑥ 空き店舗について、目標値は平成 20 年度末には 3 店舗ふえている。38 店舗から 41 店舗になっている。20 年 7 月に 3 拠点がオープンし、38 店舗に戻ったが、平成 21 年度 4 月以降かなり空き店舗がふえている。昨年度、北門の 60 周年記念事業として支援していただき、空き店舗対策を行っているところだが、非常に難しい状況である。

若山部次長

⑧ スカイスポーツに関して、北海道スカイスポーツ協会へ会費として 10 万円の支出。また、指定管理として支出している部分もある。現在、スカイスポーツの自助努力という形で、業務従事職員は 1 名となり以前よりは少なくなっている。なるべく市の税金をかけない方向で進めている。その中でスカイスポーツ振興協会が市内にある団体も絡めて、小学生をグライダーに乗せ自分の家を見せるような事業、市民の体験搭乗、市外からの搭乗者もいる。また、スカイスポーツフェアも

実施している。大きな大会がないときも、知恵を絞りながら事業を実施している。全国のオーナーの関係だが、スカイスports振興協会では押さえていると思うが、市では数字を把握していないので、答弁できない。

⑨⑩ 丸加高原健康の郷について、平成20年度は管理代行負担金2,450万円をベルックス及びグリーンハウスに出していた。直営ができる金額ではないかということだが、人件費だけではなく、大部分が工事費である。直営と委託の比較だが、行政ができる範囲には限界があり、今後も進めていきたい。宿泊利用についての統計はないが、レストランについて7対3の割合で市民の利用が多い状態である。丸加高原健康の郷について、民間になってから、夕方に出向いたら閉まっているなど、サービス面がよくない話を聞いた。委託をした意味がないのではないか。道の駅のように完全に任せるほうが、中途半端な状態よりよいのではないかと思う。サービスが悪くなったのか伺う。

渡 辺

若山部次長

サービスの状態については、報告を受けていない。条例等により開設時間が決まっている。もし、そういうことが事実であれば、きちんとした対応をしたいと思う。随時クレームについては報告を受ける協定内容になっている。重要なものについてはすぐに、些細なものであれば月ごとの報告書の中で受けており、その中でクレーム処理に誤りがあれば、すぐに指示を出すことになっている。指定管理をするときにそれぞれの施設における管理代行負担金の算出の仕方がある。その中で収入支出の割合から算出している。道の駅とは若干違ってくる。

委 員 長
井 上

他に質疑はあるか。

丸加高原伝習館について、場所的に滝川の奥座敷である。そのロケーションの特性を生かして、民間になってももう少し努力してほしいと思う。空知で3,000人の農業体験の受け入れを行っているが、本州からの学生を連れて、伝習館に行った。パークゴルフを体験させたり、ハルユタカのラーメンを食べさせたりしようと思ったが、パークゴルフ場の整備が行き届いていなかった。民間に任せるのもよいが、滝川市の貴重な財産だから、十分生かした経営を行ってほしいと思う。契約の中にパークゴルフ場に関することは記載されていないのか伺う。

前田主査

契約の中でパークゴルフ場を行ってはいけないということにはなっていない。今の状況だが、パークゴルフ場の芝に関して、クレームがこちらのほうにも来ている。実際に現地を確認したが、パークゴルフをするには芝が長過ぎる状況であることを確認している。フェアウェイについては、おおよそその程度芝を刈るように指示を出しており、改善に向けて努力させているところである。

若山部次長

私も確認した。パークゴルフを行っている方に話を聞いた。今の状態はよくはないが、無料のところと比べてもそれほど悪いと思わないという意見であったが、芝の刈り方を一工夫してほしいということで、パークゴルフの団体の方の意見を聞きながら、芝を直していこうと思う。

井 上
委 員 長
荒 木

パークゴルフは25万円の収入がある。もう少し経営努力してほしい。意見とする。

他に質疑はあるか。

① P201、東京滝川会交付金50万円だが、これの使用内容について伺う。

② P201、たきかわ観光協会補助金500万円だが、観光協会と観光部門の一体化に向けた取り組みを進行中で、毎年補助金が500万円と一定している。一体化していくのに補助金が横ばいである理由について伺う。

③ 業務従事の関係で、業務従事と派遣の経費的な違いはあるのか伺う。

④ 事務概要P118、観光者数の統計をどのように行っているのか伺う。

志賀副主幹	① 東京滝川会について、滝川市の交付金を含めて、平成 20 年度 253 万円程度収入があった。そのうち支出に関しては、事業費として 123 万 7,000 円、事務費として 23 万 4,000 円、支出合計 147 万円ほどになり、翌年度繰越については、106 万円ほどになった。
多田部長	② 観光協会について、観光協会と観光行政との一体化に向けてということで、市から直接的に出す金額については変わっていないが、業務従事ということで、ことしから 1 名増加させている。観光協会が自立に向けた歩みをどのような形で行っていくのかについて、観光協会の中でも法人化等に向けて検討してもらっているところである。そういう中で行政としてのかわり、現在、観光振興計画の策定等を行っているところだが、その辺も観光協会と行政のかわりについて、動きながら一体化に向けた道について検討しているところである。補助金については変わっていないが、体制的には変わっているということである。
前田主査	③ 業務従事と派遣について、経費的な面の違いは今のところないが、派遣の場合は原則 3 年間で最高 5 年間という期間の制限がある。業務従事の場合は市職員の身分と協会の身分両方を持つ。
荒 木 志賀副主幹	④ 観光の入込者数だが、毎年観光客が多く来ると思われる施設にあらかじめ統計調査をお願いしている。来客が多い施設である道の駅たきかわ、滝川ふれ愛の里、丸加高原伝習館、どうぶつランド等に統計調査依頼をして、その集計をまとめた。 東京滝川会の事業の内容について伺う。 平成 20 年度の事業内容について、総会を年 1 回開催し、会費を受け取っているがその分も決算の中に含まれている。役員会を年 1 回、新規会員の募集を兼ねて会員交流会を年 1 回開催している。ふるさとツアーも実施しているが、ここ 2 年ほどツアー参加者の申し込みが少なく中止になっている。年 2 回ほど会員への情報提供として、東京滝川会だよりを発行している。ふるさと産品のあっせん事業も行っている。
委 員 長 三 上	他に質疑はあるか。 東京滝川会の目的は、滝川にいた方が東京方面に行き、ふるさと滝川にどのような還元をしてくれるのか、それを期待してできたはずである。過去に企業誘致などでどれだけ貢献されたのか伺う。
若山部次長	東京滝川会は平成 5 年に設立されている。東京滝川会が設立されてから、実際に企業誘致はできなかったが、会員からの紹介を受けて、企業訪問させていただいて、ネットワークづくりに大変有意義であったと思う。東京滝川会の前身の会もあり、その中では実際に進出していただいた企業もあった。その方は引き続き東京滝川会で役員をされている。また、役員会の方々から滝川市にふるさと納税をしていただいている。恐らく 200 万円以上の額になっていると思うが、貢献していただいている。
三 上	この交付金の金額では、交流していくためには足りないのではないかと思います。市内の経営者の方々と一緒に行くことで、ネットワークづくりができるのではないかと思います。過去に行った実績はあるのか伺う。
志賀副主幹	平成 20 年度において、市内の経営者の方と同行するということはない。昨年、総会に来賓として商工会議所の会頭に来ていただいて、東京在住の方と交流を深められた事実はある。
委 員 長	他に質疑はあるか。

副委員長

① P185、季節労働者対策について、現在の状況をどのようにとらえられているか。季節労働者関係の特例一時金などを含めた環境が変わり、滝川市としても対策を取ることが求められていた中で、市独自の対策として取られたものがあったのか伺う。

② 通年雇用対策について、今回通年雇用として8名ということが事務概要に記載されているが、この成果をどのようにとらえられているか伺う。予算時に目標として10名としていたと思う。季節労働者全体の対策としてどのようにとらえられているか伺う。

③ P191、担い手育成、女性の農業研修を含めた若手農業者研修について、女性の農業者研修が行われたのか伺う。事務概要の中で若手農業者研修は先進地の視察のみが記載されているだけであった。それ以外の活動が行われていれば、その内容について伺う。また、先進地視察に対する評価について伺う。

④ 地場農産物の振興について、本年特に行われたことがあれば伺う。

⑤ 担い手以外の農家対策について伺う

⑥ 中心市街地活性化について、費用対効果が求められるのは当然である。ソフト事業に対して費用をかけるのは評価に値するものだと思うが、その一方、求められるのは効果である。先ほど着実に効果は上がっているとの答弁があったが、例えば、空き店舗についてどのようになっているのか。通行量などの人数について調査がどのように行われているのか伺う。

⑦ 駅舎のエレベーターについて、現在の状況がどのようになっているのか伺う。

⑧ どうぶつランドについて、大型動物の譲渡が滞っているようだが、その状況について伺う。

志賀副主幹

① 季節労働者の援護関係だが、平成20年度に滝川市において、季節移動労働者に対して健康診断の事業を実施した。案内は32名に行い、受診者は2名であった。減った要因だが19年度以降、講習助成制度の廃止や自己負担金1,000円を徴収することになったため、人数的にもこのような数字になったと思われる。

千田室長

⑥ 中心市街地活性化の費用対効果だが、事業開始が3拠点できた平成20年7月で、目標値が街なか居住については、当初年度が2,660人で、これを2,800人まで上げていく計画である。20年度末においては、2,712人でふえている。街なかに共同住宅がたくさん建っているが、人口がふえていないので後追い調査を実施した。職員で共同住宅をチェックし、住民登録との関係を確認したところ、例えば20戸の共同住宅で住民登録が1戸のみのケースがあり、現地確認したところ、18戸電気がついている状況であった。15年度以降の共同住宅を再調査し直した結果の数字を掲載している。来年度以降も後追い調査をしていきたいと考えている。コミュニティ施設利用者であるが、当初が6万4,773人で、20年度末が7万7,122人ということで拠点がふえたことによる増加ということになっている。街なか通行量だが、7,008人から今年度の春の調査では9,062人ということでふえている。しかし、通行量については、天候などにも影響されるため冷静に判断をし、今後も推移を見ていきたいと考えている。空き店舗については、20年度末で38軒ということで変わりはないが、今年度に入ってから大通商店街、銀座商店街など4商店街で6軒ほどふえている。昨年、北門からチャレンジャー育成基金ということで、空き店舗対策に500万円の寄附をいただいて実施している。情報提供等の対策を行っているが、後継者がいないということもあり、非常に厳しい状況である。坂の上商店街で1軒、空き店舗が埋まったが、なかなか効果があらわれない。

若山部次長	①② 通年雇用と季節労働者の関係は表裏一体で、平成 20 年度の事業所統計では、季節労働者が 824 人と把握している。その方々にいかに支援ができるのか。また、いかに通年雇用へ移していけるのかを努力しているところである。例えば季節労働者に健康診断の周知を行い、住所のわかる季節労働者に対しては、広報などを送付し、地方にいても滝川市の施策内容がわかる形にしている。通年雇用に対して 10 人の予定が 8 人ということで、企業の方といろいろ話をさせていただいているが、企業のほうで通年雇用として抱えることができるのかという問題がある。ふるさと雇用を使って新たな雇用という話になるのだが、現状、今いる社員をどう使っていくかという問題が大きく、新たな雇用を考えることは難しいようである。その中で 8 人を確保したというのは、まずまずだと考えている。
千田室長	⑦ 駅舎のエレベーターについて、平成 20 年度に予算は計上していないが、滝川市として総合的に運輸局、J R 北海道等に要望など行っている。
新井課長	③ 若手の農業者研修だが、平成 19 年、20 年度の 2 カ年事業で行った。青年農業者の道外視察研修を実施した。これの評価について、終了後アンケートを実施した結果、非常に参考になったという回答が得られた。今後もこのような事業に参加したいということであった。それ以外の研修だが、パソコン研修なども行った。女性農業者の研修だが、限定して行ったわけではないが、アグリビジネス研修会において、かなりの女性の方に参加していただいた。そのほかに普及センターにおいて、女性農業者の研修を 2 カ年事業として行っている。
阪本室長	⑤ 担い手以外の対策だが、担い手中心と言いながら、助成事業も含めて、研修の対象も認定農業者に限ったものではない。そのような研修や保証融資などの制度を通じて、逆に担い手になっていただくような形を推進している。
前田主査	④ 地場農産物販売促進事業に要した経費で、東京で単独の物産展を滝川市として初めて実施した。菜の花の自立化に向けた最終年度ということで、菜種油の P R とポスター作成を行った。
	⑧ 大型動物を含めた動物の譲渡について、各動物園等にアンケートを実施している状況である。大型動物の一部を引き取ってもよいという話をいただいているところだが、鳥類が 170 羽いるので、それらをどういった形で譲渡するのがよいかを整理する必要がある。ニホンザルが 1 匹おり、かなり平均寿命を上回っている。片腕しかないということで、このサルを引き取ってもらうのが厳しい状況にある。
委員長 田 村	他に質疑はあるか。 ① シルバー人材センターについて、砂川市が抜けたということで、補助金が幾ら減ったのか伺う。
	② 全国シルバー人材センター事業協会負担金と北海道シルバー人材センター連合会負担金を市で払っていると思うが、滝川市とシルバー人材センターの関係性について伺う。
若山部次長	① 平成 20 年度はまだ別れていない。21 年 4 月に砂川市が抜けたので 21 年度決算に反映される。
	② 負担金の関係だが、全国シルバー人材センターと北海道シルバー人材センター連合会の負担金の中で、事業実施主体がシルバー人材センターという形で、全国の状況をフォローするものであり、全国または北海道と直接事業を行うことはない。
田 村	シルバー人材センターと滝川市のかかわりについて再度伺う。

若山部次長 平成 20 年度において、シルバー人材センターに国からの補助金が入っている。1,425 万 1,000 円という補助金だが、これについては滝川市と国の補助金分である。

田 村 滝川市から役員が入っている。定年の問題、市が独占的に行っているのか、あるいはシルバー人材センターにどれくらいの運営を任せているのか伺う。最近是人材的に問題があるようであり、市の退職者が指定席のように入っている。このような問題を含めて、市とシルバー人材センターとのかかわりについて伺う。

多田部長 市とのかかわりについて、シルバー人材センター設立に当たっての行政的なかかわりは、設立の段階ではあったと思う。そういう観点から、滝川市と砂川市の負担金という形で出ているのだと思う。理事会制をとっている中で、人材の観点から滝川市の元職員が就任しているという面はあると思うが、国で論議されているような天下りのようなものはないと理解している。また、その中での定年については、理事会等でシルバー人材センター独自に決められているものと認識している。滝川市と砂川市が分かれるといった経過についても、砂川市のほうからやむなく、平成 21 年度から単独でという形になったところである。行政としては、側面からの支援はするが、直接的な経営についてのかかわりは持っていない。

田 村 職員の採用について、シルバー人材センターがすべて行っているのか、あるいは市からの助言があるのか伺う。滝川市と砂川市が別れたことにも関係してくると思うが、滝川市が役員についてもかなりの権限を持っているのか伺う。

多田部長 補助金を出しているという観点から、運営について行政としても助言をすることもあると思う。人事については、権限はないと把握している。滝川市と砂川市が別れたということに関して、共同して立ち上げた組織であるので、何とか一緒にできる方法はないのかということも行政として協議したが、残念ながら砂川市の意向がかなり強く、別れるということになった。

若山部次長 答弁を訂正させていただく。シルバー人材センターの運営補助金で、1,425 万 1,000 円について、これは滝川市と砂川市の分が入っている金額である。

委 員 長 他に質疑はあるか。(なし) 質疑の留保はなしと確認してよいか。(よし)

以上で労働費・農林業費・商工費の質疑を終結する。所管入れかえのため若干休憩する。

休 憩 11:22

再 開 11:33

委 員 長 休憩前に引き続き会議を再開する。

土木費

委 員 長 土木費の説明を求める。建設部長。

大平部長 (土木費について説明する。)

委 員 長 説明が終わった。これより質疑に入る。質疑はあるか。

渡 辺 ① 道路維持費と道路新設改良費について、相当維持費が多くなって大変よい傾向だと思うが、道路新設改良費を勘案すれば、もっときれいな道路ができるのではないかという意味で、7,500 万円と 3 億 1,700 万円程度をもっとプールすれば、道路が広く、長く、きれいになるのではないかと思うがいかがか。

② 除雪・排雪対策に要した経費が 5 億円から 4 億円となり、平成 20 年度は 3 億円となっているが、以前のアンケートのとおり、市民は排雪を強く望んでいる。不用額を出すのもよいが、排雪に力を入れるべきだと思う。空知川へ必ず運ばなければならない、近くの空き地にグレーダーで運べば、排雪も相当減ってくるのではないかと思うが、このような工夫はいかがか。

	③ 公園管理費だが、管理等委託料及び管理代行負担金について、それぞれ2,100万円と99万円程度出ているようだが、どこの公園に出しているのか伺う。
	④ 滝川公園の維持管理について幾ら使ったか伺う。また、どのような維持管理をしているのか伺う。
川本課長	② 除排雪の関係だが、排雪に関しては、現場をパトロールして必要なものはやるべきで、住民合意が得られる部分で排雪のほうは力を入れて進めているところである。空き地に雪を捨てることに関しては、民有地であれば難しい。公園等で人がスノーダンプ等で運ぶ程度であれば認めている。機械を使って、空き地に運ぶことは現在のところ考えていない。
大平部長	① 道路維持費については、市の単独費で行っている。道路新設改良費については、起債または補助により実施しているが、生活道路を中心に行っている。基本的にきれいにしていくのは改良事業によって行い、その分維持費がかからなくなるということで進めている。
川本課長	④ 滝川公園について、風致公園ということで、自然を生かしたままの公園である。草刈りは年3回ほど実施して、滝川振興公社に委託している部分で、枯れ枝を集めてもらっている。金額的には、いろいろな公園を含めてのものなので、滝川公園のみということでは答弁できない。
若山部次長	③ P215、管理代行負担金99万3,000円は、滝川市から滝川スポーツ振興協会に指定管理している航空公園等の管理委託に関するものである。
川本課長	④ 公園の委託料だが、滝川振興公社のほうに委託している部分、公園の修繕などに使う費用である。
委員長 荒 木	他に質疑はあるか。 落ち葉や剪定した後の樹木について、それだけをまとめれば、土木課のほうでそれをたい肥に回すような取り組みをしていると思うのだが、ごみ減量化の観点から非常によいことで促進すべきと思う。それにかかわる費用が土木費のどこの部分に入っているのか伺う。
川本課長	葉については、北海道の森に運び、たい肥化して腐葉土として再利用している。樹木については、産業廃棄物処理ということで処理している。樹木の処理費については、街路樹の整備に要した経費の中で行っているが、葉の運搬については直営で運んでいる。
委員長 井 上	他に質疑はあるか。 ① 道路維持について、市内の道路はそれなりに努力して行っていると思うが、国道との関係で、国に要望すべきことがある場合、通常どのようになっているのか伺う。また、河川についても平成18年に私も要望活動を行い実現できた。このことについても伺う。
	② 流通団地で企業が進出している。国道の街路灯が暗くて、企業が非常に困っている。暗いので時々車が逆走する。中央分離帯を取ってほしいという話があった。これを要望したが難しかった。道路事務所との話し合いで街路灯を増設することはできるという話だった。市と道路事務所との関係を築くことによって、スムーズに話が進むこともある。その後どのような話になっているのか伺う。
大平部長	①② 国、河川、道路があるが、連携を密にしている。開発局に出向き、日ごろから要望を行っている。河川についても井上委員と一緒に出向いて実現をした。要望した内容で完成するのではないかと思う。流通団地の分離帯の関係、道路照明の関係についても要望したが、ほかとのバランス等により、すべては実現でき

なかったが、ことし1基増設が可能になった。今後も開発局とのつながりを大切にしていきたいと考えている。

井 上

例えば、年度当初、協議の場を設けるようなことになっているのか。また、平成18年の要望について、結末を把握していないのは協議の場を設けていないからだと思うがいかがか。

大平部長

年度当初に細かな場所について協議の場を設けるようなことはしていない。大きな案件については要望活動を行っている。日ごろの維持管理については、地域からの要望等があるときに行っている。連携を密にしていかなければならないので、細かなところについてもフォローをしていきたいと考えている。

委 員 長

他に質疑はあるか。

三 上

① 道路新設改良について、20年度は3億1,700万円使用しているが、決定する際の優先順位というのはどのようになっているのか伺う。

② トラフの関係で雨のとき吸い込んでいかない。トラフの補修などはどの費目に入っているのか伺う。

川本課長

① 順位は、現場を見て、優先度の項目を大中小に分けて順位を決定して進めている。補助工事等に関しては、継続部分もあるので、補助対象に合う路線を選定して進めている。

② トラフの側溝の補修については、道路の維持に要した経費の中の委託料に道路側溝等補修委託料があり、その中で整理している。

三 上

道路新設改良について、優先順位は市のほうが決めたことであり、地域住民が考えている優先順位とは全然違う。そのことに関して、住民理解を得るためにどのような努力をしているのか伺う。

川本課長

優先順位の相違が出てくることもある。その中でも現場を見ながら、あるいは地域のバランス等も勘案して、工事箇所の選定を行っている。できるだけ地域の要望を聞きながら進めているが、なかなか要望等に沿えない面もある。今後とも現場を把握し、地域の要望を聞き、地域バランス等を考慮しながら進めていきたい。

大平部長

滝川市公式ホームページに道路改良工事について、道路工事の選定の考え方を項目別に載せている。市内全体の悪い箇所を見て、その場所を点数化している。それを公表はしていないが、その中から優先順位を決めて、予算協議をし、地域バランス等を考えながら行っている。補助事業については、ある一定距離の長さが必要などの基準があるため、優先順位の相違もある。国の補助をもらい、工事をしたほうが財政的にもよいため、そのような箇所を最優先にしていることもある。

委 員 長

他に質疑はあるか。(なし) 質疑の留保はなしと確認してよいか。(よし)

以上で土木費の質疑を終結する。以上で本日の日程は全部終了した。明日は午前10時から会議を開く。本日はこれにて散会する。

散 会 12:01